



全日赤

給食問題対策委員会ニュース

No2008-01

2008.12.01

このニュースは全日赤のホームページでも見られます <http://www.zennisseki.or.jp/>

2008年度第1回対策委員会報告

第1回給食問題対策委員会を2008年11月30日(日)から12月1日(月)にかけて、医労連病院給食全国交流集会(11/29~30)と連動して熱海温泉にてを開催し、2008年度の委員会役員体制として、引き続き対策委員長に松江単組の三島氏を選出するとともに、全日赤定期大会で決定した方針の具体化のための議論をしました。

各単組の状況報告では、多くの施設が医師不足の影響を受けて入院患者が減っていることが食数から分かることが報告されました。しかし一方で個別対応が増え、業務が繁雑になるなかで、食数が減っても人手不足であることが経営者には理解されない現状も報告されました。また派遣社員はコロコロと人が変わり教える手間も増えていることが、忙しさに拍車を掛けています。このような状況のなかでベットサイドへ訪問を止めざるを得なくなった単組もあり、業務委託が患者サービス低下に繋がっていることが明らかになっています。

派遣から請負に変えた病院では、契約内容を現場に報せず、直接雇用職員と一緒に仕事をしている「偽装請負」となっていますし、下請け労働者は「契約内容以外の仕事はしない」当然の主張・態度から現場での混乱を引き起こすとともに、職場の人間関係までも壊しています。

食の安全について

中国食材の危険性や産地偽装、事故米の流通など、食の安全に関する報道が相次ぐなか、給食問題対策委員会としても「食の安全」について議論しました。参加単組の施設では問題となった食材の使用はなかったものの中国産の食材を使用していることが報告されましたが、請負業者が持ち込む食材の実態は分からない状況に対して、日赤本社への追及も必要であるとの結論に達しました。加えて食中毒に関しても派遣労働者を含めた衛生管理の指導方針や対策、保菌者の取扱い、職員の集団感染(パンデミック)対策、ノロウィルスの検診などについても本社追及を行うことと、そのための要求も検討することにしました。

全日赤2008年度
給食問題対策委員会

対策委員長

三島 豊史(松江)

副委員長

小泉 憲治(成田)

辻 光夫(山田)

対策委員

三浦 美智子(福島)

井上 直樹(富山)

木藤 淑子(京二)

田中 里実(庄原)

事務局

中村 健一(本部)

山口 早苗(本部)

全日赤第9回給食問題全国交流集会

恒例となった給食問題全国交流集会を今年度も実施することにしました。開催日および内容については下記のとおりで、準備を進めていきます。

日時 2009年3月14日~15日(予定)

場所 東京

内容 アレルギー食についての講演と実習
パート労働法に関する講義

給食を院内外に
アピールするため
のキャラクター
募集をします。
詳しくは後日

